

令和7年度小松市立荒屋小学校 学校評価 1 (計画)

めざす児童生徒像

「じ」：自分で考え行動する。 ・自分なりの考え方を持つ。 ・よく考え方判断する。 ・よいと思ったことは進んで行う。	「も」：もっと良くなろうとする。 ・より良いものを目指す。 ・粘り強く最後まであきらめずやりぬく。	「と」：共に学ぶ 思いやる。 ・自分も周りの人も大切にする。 ・対話し、多様な考え方から学ぶ。 ・感謝の気持ちを持つ。
--	---	--

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定) 子どもが主役の学校		全項目 80%以上達成	「子どもが主役」の学校づくりを目指し教育活動を行っている						
			【じ】児童は、自分で考え行動している。						
			【も】児童は、よりよくなろうと努力している。						
			【と】児童は、お互いの考え方や思いを大切にしながら活動しようとしている。						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
石川県重点項目共通 業務働き方改善		全項目 80%以上達成	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。						
			③ 気軽に相談できる環境が整っている。						
			④ ワークライフバランスが整っていると実感している。						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究 指導力の向上	①② 中間…90%以上 年度末…95%以上 ③ 中間…85%以上 年度末…90%以上	① 研究主題に迫る目標寸授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。						
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。						
			③ 子供たち同士の関りを通して考えの再構築や学びの深まりを感じることができるように工夫をしている。						
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②⑤の教員・児童生徒の割合が共に 中間…85%以上 年度末…90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。						
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。						
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント 学習方法	⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。						